別記様式第４号

2021 年度 独創的研究助成費 実績報告書

２０２２年　３月３０日

<table>
<tr><td>報　告　者</td><td>学科名</td><td>看護学科</td><td>職 名</td><td>教授</td><td>氏 名</td><td>関根紳太郎</td></tr>
<tr><td>研 究 課 題</td><td colspan="6">大学院教育における社会言語学と看護学との学際性に関する研究</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研 究 組 織</td><td colspan="2">氏　　名</td><td colspan="2">所 属 ・ 職</td><td>専 門 分 野</td><td>役　割　分　担</td></tr>
<tr><td>代表</td><td>関根紳太郎</td><td colspan="2">看護学科・教授</td><td>メディア英語学･社会言語学</td><td>研究責任者</td></tr>
<tr><td>分担者</td><td></td><td colspan="2"></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>研究実績の概要</td><td colspan="6">■本研究では、日本語コーパスを比較検証しながら、（統計的にフィルタリングされた）特徴語と関連語を内包する看護保健領域ディスコースを検証することで、研究キーワードの意味の本質（＜世界＞の一端）を探求することをねらいとする。そして、看護保健領域における社会言語学的アプローチが、特にアンケート調査の自由記述欄などに内在する意味や概念の抽出に有効であるという点について実証的に考察した。また、本研究では、言語によって再現された困難感などの心的現象を、統計処理により数値的に把握することも可能となる。
■こうした言語情報をデータベース化（コーパス）し、統計解析を試みることで、その言語情報の集団的特性を顕在化する分析手法のことをコーパス言語学という。そうした統計処理から、困難感などの負の感情（心的現象）にある特徴語を抽出し、その特徴語を中心とする語の意味的まとまり（ディスコース）について考察する。これをディスコース分析という。このように、本研究では、コーパス言語学を活用することで、研究者の思い込みや偏見、バイアスといった主観的側面を極力排除（フィルターをかける）した上で、ディスコース分析による（主観的）考察を行った。こうした量的分析といえるコーパス言語学と質的考察といえるディスコース分析をあわせた統合研究法を用いることで、「コロナ禍の新人看護師の困難感」という局所的現象に対しても大局的に捉えることが可能となった。
■本研究を通じて、<u>看護学も含むコミュニケーションの展開には、社会言語学の認知意味論的側面と、知識社会学の社会構成主義的側面が影響していることが顕在化した</u>と言える。つまり、コミュニケーションとは単なるヒトが発する言葉のやりとりだけではなく、その社会的背景によって、その発せられる言葉の意味が決まったり、変容したりするということである。例えば、看護学でも（特に終末期ケアにおける）ナラティブアプローチなどは、こうした社会言語学の応用と言える。終末期ケアにおけるナラティブアプローチは、患者の終末期までの人生を、語りの中でストーリー化して再現し、残り人生における社会的文脈の中でより肯定的な意味に置き換えて、患者の（そうでなければ悲観的な）内的な心情を緩和することをねらいとする医療ケアである。
■今後の課題としては、大学院保健師課程のアンケート調査研究や、学部教育における卒業研究などにおいても、コーパス分析とディスコース分析、認知意味論を活用した研究事例を積み重ねていくことで、社会言語学と看護学との親和性を検証していきたい。</td></tr>
</table>

※ 次ページに続く